

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	災害時避難収容施設で災害体験とワークショップ（研修会）の開催
事業主体 (連絡先)	飯山倶楽部 (事務局 飯山商工会議所内 内堀真知子 電話 0269-62-2162)
事業区分	安心・安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	453,459 円 (うち支援金: 353,000 円)

事業内容

- 1) 防災キャンプの準備を兼ねた勉強会とワークショップを開催
- 2) 災害時の対応についての知識を楽しく実践的に深め、いざというときの知恵と資源を共有し、連携する基盤をつくることを目的として防災キャンプを実施。避難所として利用されるであろう外様地区活性化センターにおいて1泊2日の宿泊体験をはじめとした楽しく実践的な訓練を行った。また、ゲームなどのチーム編成を多世代とすることで、知恵と体力のリミックスを行った。
- 3) ワークショップや防災キャンプで学んだことを「防災キャンプのすすめ」のリーフレットとしてまとめ、PTA、各地区活性化センター、消防団、などに配布。



【避難所トイレを体験】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

苦しい、大変というイメージがある災害時の対応を、「楽しい」「面白い」という体験を通じて、災害ならびにその対応に興味をもつことができました。また、世代、立場、地域を超えた協力体制を実習したことにより、災害時における担い手の確保の最初の一步となった。さらに、被災体験や、地域の対応を学ぶことは経験の継承につながることで、市内で初めての取り組みは新聞や市報で紹介された。また、「防災キャンプのすすめ」は学校PTAや公民館、育成会などへも周知し、さらなる住民意識の向上につながった。

【目標・ねらい】

- ①防災、災害対応、避難所生活について学ぶ機会をつくる
- ②世代を超えた交流機会をつくる
- ③災害経験、体験の継承

※自己評価【A】

【理由】

飯山市内で初めての試みであり、実施後の問い合わせや、今後に向けての相談も寄せられている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

飯山倶楽部会員は行政職員や学校関係者、消防関係者、商店街店主、主婦などさまざまな職業に従事しており、その得意分野を活かす活動はまさに災害に役にたつものである。当倶楽部が今後の継続的に防災に関する事業を継続することの意味は大きいと考え、さらに、防災の専門家の協力も得やすいことから、今後も防災・減災にむけた取り組みを続けていきたいと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある